

<概要/Course Content Summary >

唯一神に帰依^{イスラーム}したムハンマド (632 年没) を預言者と認める人々、すなわち、イスラーム教徒 (ムスリム) は、クラーン (コーラン) とは、唯一神が預言者ムハンマドを通して人類に下した啓示を集めた啓典^{キターブ}であると言う。したがって、彼らムスリムにとって、クラーンが唯一神の直々の教えを集めた、最も重要な宗教的テキストであることは論を俟たない。

それでは、クラーンは、どのようなことを唯一神の啓示として人々に伝えているのだろうか。また、書物としてのクラーンはどのように形成され、ムスリムたちは、クラーンをどのように読んで、どのように利用してきたのだろうか。

この講義では、クラーンの成立過程と内容を概観し、ムスリムたちがクラーンをめぐって作り上げてきた知識体系であるクラーン読誦学と解釈学について解説する。その上で、クラーンが、イスラームの法や政治、社会や文化の中でどのように機能してきたのかを分析し、啓示や預言者をめぐって繰り広げられてきた論争を見ることで、ムスリムたちが唯一神と啓示、預言者についてどのような考えを持ち、それに基づいて、どのような社会や文化を構成してきたのかを考える。

なお、この授業は、オンデマンド動画配信 (6 回) と教室での対面講義 (9 回) から構成されるブレンディッド・ラーニング形式で行う。オンデマンド動画では、クラーンの内容などに関する基本的な知識を何度でも見直して定着させ、動画を視聴する中で抱いた疑問や考えたことなどを質問・コメントにまとめて期日内に提出する。対面授業では、提出された質問・コメントに基づいた質疑応答とディスカッションを主体とするアクティブ・ラーニングを行う。このブレンディッド・ラーニング形式を通して、基本的知識の定着と自立的な学びとともに、様々な見解や知見の共有が可能となり、より深いダイナミックな学びが可能になることが期待できる。クラーン解釈学などのより高度な内容の講義に関しても、深く多角的な基礎的知識を踏まえることで、理解の促進が期待される。どの回がオンデマンドで、どの回が対面かについては、下の「授業計画」の欄に記載した。

登録にあたっては『神学部履修要項』で履修条件などを必ず確認してください。

<到達目標/Goals,Aims >

イスラームの教義・思想・学問すべての基礎であり、ムスリムの活動全般に大きな影響を与えてきたクラーンに関する基本的な知識を習得することで、宗教や思想としてのイスラームだけでなく、イスラームが関わる文化や社会、政治や経済などを研究するための一つの基盤を構築することを目標とする。

<授業計画/Schedule >

(実施回 / 内容/Contents)	(授業時間外の学習/Assignments)
Week)	
1 回目	クラーンの基本構成とクラーンをめぐる諸問題 (オンデマンド)
2 回目	イスラームの世界観と啓示と預言者 (オンデマンド)
3 回目	1 回目, 2 回目の授業内容に関する質疑応答とそれらを踏まえた討論 (対面)
4 回目	啓示と啓典 ^{テキスト} : ウスマーン版『クラーン』の成立過程 (オンデマンド)
5 回目	4 回目の授業内容に関する質疑応答とそれらを踏まえた討論 (対面)
6 回目	クラーン読誦学 (対面)
7 回目	クラーンの内容 (1) : 警告的啓示と指導的啓示 (オンデマンド)
8 回目	7 回目の授業内容に関する質疑応答とそれらを踏まえた討論 (対面)
9 回目	クラーンの内容 (2) : 逸話的啓示その 1 (オンデマンド)
10 回目	クラーンの内容 (3) : 逸話的啓示その 2 (オンデマンド)

11 回目	9 回目, 10 回目の授業内容に関する質疑応答とそれらを踏まえた討論 (対面)	授業内容の整理と復習。次回使用するテキストの箇所が指示されたり, 資料プリントが配付された場合にはその予習。小レポートの作成。
12 回目	クルアーン解釈学 (1) : 様々な解釈の方法 (対面)	授業内容の整理と復習。次回使用するテキストの箇所が指示されたり, 資料プリントが配付された場合にはその予習。期末レポートの作成を進める。
13 回目	クルアーン解釈学 (2) : 解釈の実例 (対面)	授業内容の整理と復習。次回使用するテキストの箇所が指示されたり, 資料プリントが配付された場合にはその予習。期末レポートの作成を進める。
14 回目	社会・文化におけるクルアーン: 聖なるテキスト, 聖なるモノとしての利用 (対面)	授業内容の整理と復習。次回使用するテキストの箇所が指示されたり, 資料プリントが配付された場合にはその予習。期末レポートの作成を進める。
15 回目	クルアーン研究の課題と新たな利用と解釈の可能性 (対面)	講義全体の整理と復習。期末レポートの作成を進める。

受講生の予備知識や理解度に応じて, 開講後, 受講生と相談の上で授業計画を変更する可能性がある。

<成績評価基準/Evaluation Criteria >

平常点(出席, クラス参加等) 55%

対面授業については, 出席して不明な点に関する質問や感じたことに関するコメントを積極的に行ったか。オンデマンド配信に関しては, きちんと視聴し, 指定の期間内にコメント・質問を作成して提出したか。

期末レポート 45%

授業の内容と課題を踏まえてテーマを設定し, 関連する文献を調査して, 論理的にまとめることができたか。

<テキスト/Textbook >

井筒俊彦訳『コーラン (岩波文庫・全 3 巻)』(岩波書店, 1957-1958), ISBN:4003381311, テキストはほぼ毎回の授業で使用し, 予習・復習にも用いる。

<参考文献/Reference Book >

小杉泰『「クルアーン」－語りかけるイスラーム－』(岩波書店, 2009), ISBN:978-4-00-028297-0

大川玲子『聖典「クルアーン」の思想 (講談社現代新書)』(講談社, 2004), ISBN:4-06-149711-1

中田考監修, 中田香織, 下村佳州紀訳『日亜対訳クルアーンー [付] 訳解と正統十読誦注解ー』(作品社, 2014), ISBN:978-4-86182-5

その他の参考文献については, 授業中に紹介する。

<授業形態備考/Class type >

ネット配信動画によるオンデマンドの回に関しては, 毎回, 指定の期間内 (1 週間程度を予定) に視聴した上で, 質問・コメントを作成して e-class をとおして提出すること。それらの質問・コメントを基に, 対面授業の回に質疑応答と討論を行い, 知識の定着と理解の深化, 視点の多角化などを図る。対面授業での講義においても, 質疑応答や討論といった形態を活用することを予定している。

<備考/Remarks >

授業に関する連絡は, 基本的に e-class のメッセージ機能をとおして行う。受講生から担当教員への連絡, 課題の提出なども, e-class のメッセージによって行うことを基本とする。